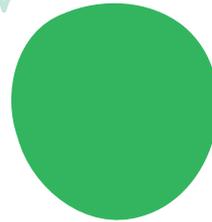


暮らすなら 檜葉

福島県
檜葉町移住
ガイドブック





町民一人ひとりが
主役になれる町をめざして

檜葉町は、町民一人ひとりが主役になれる持続的なまちづくりを目指しています。
自己実現や挑戦ができ、他人事ではなく自分事にできる町であること。
このことが持続的なまちづくりに必要な想いであるとわたしたちは考えます。
次の10年、20年先の檜葉町を共につくっていきませんか？



檜葉町について

山・川・海がよりそう
身近な自然

太平洋を眺め
ひとも気候も暖かい

首都圏からもそれほど遠くなく
ほどよい田舎

なにもないけどそうでもない
“暮らすなら檜葉”



ACCESS



車の方

いわき駅

約45分 約30km

東京

2時間20分 250km
常磐自動車道

仙台

1時間50分 120km
常磐自動車道



電車の方

いわき駅

約30分
JR常磐線

東京

約3時間
特急ひたち+JR常磐線

仙台

約2時間
特急ひたち

檜葉町

首都圏からも日帰りできる、
ほどよい場所。

車でのアクセスは、
常磐自動車利用で首都圏(三郷IC)
から約2時間20分。

電車は、JR常磐線の乗り継ぎで
3時間弱でアクセスできます。



檜葉町人口・世帯数の推移

■人口(名) ■町内居住者数 ■町内居住世帯数

檜葉町は昭和31年に木戸村と竜田村が合併して誕生しました。福島県東部の浜通り地方のほぼ中央に位置し、積雪は年1、2回程度と気候は温暖。緑豊かな阿武隈高地と太平洋の大海原に囲まれ、町の中心には鮭の遡上で知られる木戸川と井出川が流れています。サッカーのナショナルトレーニング施設「Jヴィレッジ」が立地し、観光スポットとしては温泉・宿泊施設も備えた「天神岬スポーツ公園」が有名。代表的な特産品の「ゆず」は、町の公式キャラクターのモチーフにもなっています。



檜葉の白鳥(上繁岡大堤)



町内居住数及び世帯数について

<2011年～2016年の集計方法>

震災当時、檜葉町に住民票があった者の帰還状況を示す。
(防犯パトロール隊及び町内居住者確認表において、4日以上滞っていた数値)

<2017年からの集計方法>

町内に居住している町民の数を示す。
(転入者、転出者数の変動を含めた数値)

働く

×

生活する

×

子育て

働くも育むも
叶える場所



檜葉町は新しい町として日々生まれ変わりながら、人々の触れ合い・やさしさは以前と変わらない“ひとのあたたかさ”が自慢の町です。再生・新生の道を歩む檜葉町は、多様な人々が働きたくなり、ずっと町に関わり続けたいような魅力的な「ライフスタイル」の環境を整備するため、「居(コミュニティ)・職(仕事)・住(住まい)」の促進につなげる新しい形の移住促進事業をスタートさせました。



働く



生活する

ならはの仕事

まちづくりへの意欲を持つ若者や
自分を試したいという起業家たちが
集うまち、ならは。

豊かな環境と良い刺激があるまちで、
新たなチャレンジをしてみませんか？





檜葉南工業団地等

檜葉町をさらに活性化するためには、一緒に地域を盛り上げてくれる企業の定着が必要不可欠です。企業の皆様と連携しながら、「新生ならはの創造」に向かって取り組んでいます。



おためし就労体験プログラム

町内企業への転職を検討されている方のためのプログラム。転職をする前に「おためし」でお仕事を体験することができます。

- 参加費：無料 ●交通費：一部補助(当社規定による)
 - 宿泊先：檜葉町お試し住宅(無料)
 - 体験期間：2泊3日～13泊14日
- ※具体的な期間については受け入れ企業との合意に基づきます。



檜葉町求人情報

東日本大震災からの復興がすすむ檜葉町のおすすめ求人情報を数多く掲載しています。



相双就農ポータルサイト

これから農業を始めようとしている方々へ向けたポータルサイトです。



生活する



子育て

えがお はぐくむまち ならは

山、川、海、豊かな自然に抱かれ、
過ごしやすい気候に恵まれた町。
首都圏からも日帰りできる、
ほどよい場所にあります。
檜葉町では町民が協力し合い、
見守りながら
子育て支援を行っています。





地域学校協働センター

檜葉町の小学生を対象とした地域学校協働センターのメイン事業の一つとして、「放課後ならはっ子こども教室」があります。国が推進する放課後教育・地域教育となる「放課後子供教室」事業と学習支援活動の「地域未来塾」事業、そして、放課後の留守家庭児の居場所である「放課後児童クラブ」を一体的に展開しています。

その他、あおぞらこども園の園児から中学生を対象とした、土曜日の自然体験活動「ネイチャーサタデー」、町内の企業・団体での職業体験「キャリアスクール」、地域住民が給食を楽しむ「ランチミーティング」など、多様な人を対象とした地域協働活動を展開し、多様な体験と、檜葉という地域性を活かした魅力ある活動の充実に努めています。



あおぞらこども園

あおぞらこども園は、「食育」にも力を入れ、少子化に対応した一貫性のある乳幼児の教育の場として、それぞれの機能を併せ持った幼保連携型によるこども園の認定を受け、平成20年4月に開園となりました。このことにより「0歳から5歳までの全ての子どもたちに一貫した幼児教育」を推進すること、併せて効率かつ合理的な管理運営を図ることが可能となり、更には、こども園には必須の支援センターが併設されたことにより、各種の子育て支援サービスを受けることが出来るようになりました。

また、あおぞらこども園の名称は、町民の皆様から公募した名称であり、「澄んだ青空の下で、未来の檜葉町を担う子どもたちが伸び伸び育て欲しい」との願いが込められています。



移住者

インタビュー

杉森 翔吾さん

福島県本宮市 → 仙台市 → 青森県 → 須賀川市 → 檜葉町

仙台の専門学校を卒業後、営業の仕事を経て農業短期大学校で農業を学び、2023年に株式会社ナラハプラントファクトリーに就職し檜葉町に移住。

檜葉町に来るまでのこと

農業をやってみたい

福島県本宮市出身。高校卒業後は英語の専門学校に通い、英会話学校の営業の仕事を経て、農業短期大学校で1年学びました。祖父母が農家という事もあり、幼いころから農業を間近で見っていました。手をかけて育てた作物を収穫したときの喜びが、消費者が口にしたときの笑顔に繋がる。その関係性がいいなと思っていました。

卒業後の進路は、学校から仕事の斡旋はなく、自分で就農先を探すなかで巡り合ったのが、主にトマトの養液栽培を行っている株式会社ナラハプラントファクトリーでした。農業者として必要なスキルと、経営手法を同時に学べる環境が自分に合っていると感じました。



檜葉に住んでみて

静かで住みやすいと 感じています

檜葉町に来てしばらく経ちますが、静かで住みやすいと感じています。ただ、夜にやっていないコンビニがあることに驚きました。これまで住んだ中では一番の田舎かもしれません。ただ、買い物もネットで頼んでしまうので、そこまで不便を感じていません。



趣味:楽しんでること

トマトのことを 考えるのが趣味

浜辺で座りながら飲み物買って考え事をする時間を作ってリフレッシュしています。他には車の運転も好きで知人のいる福島市までよくドライブしていますが、今は何よりトマトのことを考えるのが趣味です。



檜葉町でこれから
トライしていきたいこと

いずれ自分も独立したい

仕事をしながら経営の勉強をしていて、2年後に起業を目指しています。檜葉町ではいまサツマイモを推していますが、いつか自分でトマトをブランド化していけたらと思っています。いずれ自分も独立したいという話も社長にしていますし、今は勉強させてもらっています。

もっと読みたい方はこちらから



「農業のイメージを変えていきたい」
◀杉森 翔吾さんの
web記事はこちら

移住者

インタビュー

宇佐見 采花さん

檜葉町 → いわき市 → 東京都 → 檜葉町

(避難)

2021年11月に檜葉へUターン。

パソコン一つあればどこでも仕事ができるwebマーケター。

檜葉町に来るまでのこと

パソコンひとつあれば

どこでも仕事ができるような人に

檜葉町で生まれ育ち、大学進学を機に福島を離れましたが、心のどこかでは生まれ育ったふるさとにいつかは戻りたいという想いを抱いていました。しかし、地元に戻るようなきっかけもなく、卒業後には東京のリフォーム会社に就職しました。営業やマーケティングの担当になり、新たな仕事で学びがある一方、満員電車での通勤や日々のデスクワークは、心身の疲労感を大きくさせていきました。パソコンひとつあれば、どこでも仕事ができるような働き方をしたいと考えるようになり、仕事の一部を業務委託として請けながら個人事業主に転身しました。いつかは戻りたいという想いを抱きながらも、きっかけが掴めなかった中、仕事スタイルが大きく変化したことが想いをより一層強くさせました。そして2021年11月、仕事をそのまま続けながら実家へ戻る決断をしました。



趣味:楽しんでること

休日はバドミントンで エンジョイ!

ならばスカイアリーナのような屋内体育施設が手頃な値段で利用できるのはすごく魅力的で、休みの日には高校時代の友人や先輩を誘ってバドミントンをすることが楽しみです。また、県外から友人が訪ねて来ることもあるので、浜通りの観光スポットと一緒にドライブしたりと休みには近隣のまちに赴いて時間を過ごすことも多いです。



檜葉町でこれからトライしていきたいこと

仲間と一緒に

パソコンひとつでどこでも仕事ができるので、今後の選択肢として複数拠点で活動することも考えています。現在の業務委託先のサービスを使い、檜葉をベースとしつつ、東北をはじめとした他地域に滞在しながら仕事をしていくのもひとつの方法だと捉えています。また、家をリノベーションしたり空き家をシェアハウスにしたりと、家に携わる仕事をしていることもあり、空き家の利活用こそが自分にできる地域への貢献方法なのではないとも考えています。そうした考えを共有できる仲間を増やしていきたいです。



もっと読みたい方はこちらから



「まずは地元を拠点に」
«宇佐見 采花さんの
web記事はこちら

移住者

インタビュー

長井 翔太郎さん

大阪府吹田市 …> 檜葉町

大学在学中に農業に関心を持ち、白ハトグループに就職。
2021年から(株)福島しろはとファームに異動となり、檜葉町に移住。



檜葉町に来るまでのこと

「農業」きっかけで檜葉町へ

大阪府出身で立命館大学の理工学部環境都市工学科から大学院に進みました。環境システム工学を学んでいましたが、「農業」に関心を持ち、在学中にもかかわらず直接農家のところに学びに行くほど熱は帯びていきました。

その後、農業の6次化に関心を持ち、白ハトグループが運営する「らぼぽぼ なめがたファーマーズヴィレッジ」に入社を決めました。2017年に大学を卒業し、ちょうど白ハトグループが檜葉町での事業を始めたタイミングでもあり、その年の苗植えて初めて檜葉の地を踏みました。そして2020年秋に新設の貯蔵庫の稼働を契機に檜葉町の福島しろはとファームに異動となり、2021年1月職場の同僚だった妻とともに移住しました。

檜葉に住んでからの思い出、
印象に残っていること。

都会にはない人の繋がりや 支えに温かさを感じています

2021年に婚姻届を出しに行った時受け取ってくれたのは町長でした。娘が生まれた時にも地域の皆さんに喜んでいただき、地域から暖かく迎えてもらっているなと感じています。

地域の人と会うと子供が『大きくなったね』と声をかけてもらえますし、そういう距離感
は地元とは違います。



檜葉町でこれからトライしていきたいこと

「来てくれて良かった」と言ってもらえるように

地元の人からすれば、大阪からよくわからない会社きたという印象があったのではないかと思います。

そのため、時間をかけて地元の会社という形になっていきたいなと思っています。貯蔵庫が建てられた場所も、震災前までは家がありました。そこに貯蔵庫や育苗ハウスができ、風景が変わってしまったと複雑な気持ちで見ている人もいます。

福島しろはとファームが来て変わってし

まったではなく「来てくれて良かった」と言ってもらえるように、地域に腰を落着けてじっくり取り組んでいきたいと考えています。

もっと読みたい方はこちらから



「檜葉町の地元の会社として
見てもらえるように」
「長井 翔太郎さんの
web記事はこちら

移住者

インタビュー

横須賀 直生さん

檜葉町 → 東京都 → ドイツ → 茨城県水戸市

2019年3月に県外出身の夫、2人の子どもを連れてUターン。
2020年5月、町内に「おかしなお菓子屋さんLiebe」をオープン。

檜葉町に来るまでのこと

東京やドイツでお菓子作りを学び、 自分の夢を実現するため檜葉町へUターン

檜葉町で生まれ育ち、高校2年生の時にお菓子づくりの道へ歩むことを決め、高校卒業後に東京にある製菓学校へ進学しました。東京の製菓学校を卒業後は将来自分の店を持つことを目標として、神奈川県にあるお菓子屋で経験を積み、もともと関心があったドイツ菓子の本場を知りたいとの思いからドイツへ渡りました。帰国後は茨城県の水戸市でホテルのシェフパティシエとして働き、お菓子づくりの経験を積んできました。檜葉への移住を考え始めたのは、子どもが生まれたことがきっかけでした。放射線のことも考えると本当は戻ってくることが怖かった。自分の知っている町とは違う姿になっていることが分かっていましたので、主人と1年近くじっくり話し合い、2019年3月に旦那と2人の子どもを連れて檜葉町へ移住しました。





趣味:楽しんでること

長年の夢であった 自分のお店を 檜葉でオープン

この町を良くしていこうと思って戻ってきましたが、町の様子をみて自分が肩ひじ張って何かする必要がないくらい復興が進んでいると感じました。そこで、自分の夢を見つめ直し、「自分が本当にやりたかったことをやろう」という気持ちになり、お店をオープンしました。

檜葉町でこれからトライしていきたいこと

女性が働きやすい環境づくりを目指して

子育て世代の女性は9時~17時ではない柔軟な働き方を求めているのに、それを実現できる場がまだ地方には少ない。フレキシブルな働き方ができるようにすることで、女性が働きたいと思える会社をつくれたら嬉しいです。



もっと読みたい方はこちらから



「夢であった自分のお店を
故郷で開業」
◀横須賀 直生さんの
web記事はこちら

ナラハステップ

檜葉町、移住に向けてのステップ



Start

- ✓ 移住したいと思ったら
- ✓ 檜葉町が気になったら
- ✓ 転職したいと思ったら



Step1

ならはを知る

移住相談窓口へ相談
(檜葉町の紹介、支援制度の紹介)

電話やオンラインでの相談

移住前から移住後までサポートします。



檜葉町移住定住サイト
「暮らすなら檜葉」
<https://kurasu-naraha.jp>



Step2

ならはを体験する

ならは体験プログラム

移住相談窓口のスタッフが檜葉町をご案内。日帰りから2～3泊程度の短期間でのツアーをコーディネート。気になる移住後の職場や住居の見学もできます。

おためし就労体験プログラム

転職をする前に「おためし」でお仕事を体験することができます。

お試し住宅

生活に必要な備品を備え付けたお試し住宅に短期滞在をしながら檜葉町での生活を体験できます。



Step 3

ならはで仕事と 住まいを探す

檜葉町での求人や空き家、空き地情報について取りまとめています。直接、移住相談窓口でも相談できます。



福島県双葉郡檜葉町のおすすめ
求人情報

「暮らすなら檜葉」

<https://kurasu-naraha.jp/house-and-work>

GOAL

ならはで暮らす

ドキドキとワクワクが入り混じる、ならはでの暮らしがスタート。一緒にならはでトライしましょう。

移住後も、暮らしの困りごとなどをいつでも相談できます。また移住者同士のつながりを作る取り組みもあります。



-名物・お土産から見所まで-

檜葉町の 情報が詰まった 「ならは散策マップ」

震災後、檜葉町には多くの方が視察や観光、仕事等で訪れています。せっかく檜葉に来てくれたんだから少しでも多くの町の魅力に触れて欲しい、そんな想いでつくられたマップです。飲食店や見どころ・お土産品などの情報をたくさんさんの“ひと”が紹介しています。



「ならは散策マップ」

<https://www.narahamirai.com/togonaraha/map/>



移住相談窓口のご案内

2024年5月より檜葉町の移住相談窓口が
檜葉町地域活動拠点施設「まざらっせ」に移転いたしました。



住所: 〒979-0514

福島県双葉郡檜葉町大字下小埞字久保田63-3

営業時間: 月～土曜日 9:00～17:00

※毎月第2・第4水曜日、年末年始はお休みとなります。

※施設の開館時間とは異なりますのでご了承ください。

TEL: 0240-23-6271

URL: <https://mazarasse.com/>

※施設のご利用に関しては0240-23-6129にご連絡ください。



JR木戸駅から徒歩約10分

車ならばスマートICから約10分

広野ICから約10分

檜葉町役場から約5分

「まざらっせ」でできること



貸室を利用する

サークル活動、会議、イベント、
ホール、スタジオ、キッチン…



コワーキング

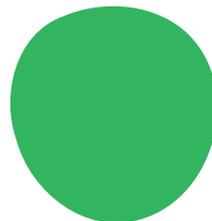
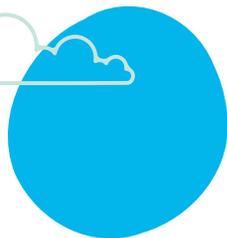
フリーWifi、電源完備、予約不要
仕事、勉強、ライブラリー



イベントに参加する

料理教室、体験会、マルシェ、
講演会、展示会…





檜葉町政策企画課

〒979-0696 福島県双葉郡
檜葉町大字北田字鐘突堂5-6



一般社団法人 ならはみらい

〒979-0604

福島県双葉郡檜葉町

大字北田字中満260番地

みんなの交流館 ならはCANvas内